



以上のような状況を踏まえ、旭川市は観光振興策により地域経済の立て直しを図る方針を立て、観光を通過型から滞在型に転換するために観光資源の充実を図った。その一環として旭山動物園もリニューアルし、国内外にキャンペーン、プロモーションを展開した。



- ①市役所 ②市民文化会館 ③中央図書館 ④旭川市科学館 ⑤大雪クリスタルホール
- ⑥博物館 ⑦井上靖記念館 ⑧中原悌二郎記念旭川彫刻美術館 ⑨花菜里ランド
- ⑩工芸センター ⑪旭山動物園

旭川市中心部 (資料:旭川市ホームページ掲載資料を加工)

旭川市の入込観光客数(2005年度)

(単位:人)

総数	日帰り・宿泊別	道内・道外別	季節別
5,643,100	①日帰り・通過客 5,170,900 ②宿泊客 472,200	①道内客 3,123,100	①春季 647,700
		②道外客 2,520,000	②夏季 3,043,300
		③秋季 775,600	
		④冬季 1,174,600	

(資料:北海道観光入込客数調査)



旭川上空から（資料:旭川市）

## 2. 目標

旭川市は、域内はもちろんのこと域外からの需要を喚起して地域経済の活性化を加速させる施策を講じることにより、自立した経済を確立するとともに雇用の安定化を図る方針である。特に、地域の特性を踏まえて地域資源の活用を図りながら観光に関連する諸施策を積極的に進めることにより、域外の観光需要を喚起して誘客を促進し、交流人口の増加を図ることで地域経済の活性化、雇用の創出を図る方針である。観光を軸とした旭川市のまちづくりの方針は概略以下のようになっている。

### ① 外国人観光客の誘致と受入体制の整備

台湾、韓国、香港など東アジア地域における北海道観光ブームを背景に、国土交通省のビジット・ジャパン・キャンペーンと連動し、東アジアをねらいとして官民が協力して旭川地域の観光の魅力を PR し、観光客の誘致を積極的に行うとともに、増加する国際チャーター便や旭川空港としての初めての国際定期便である韓国ソウル線に対応し、外国人観光客の受入体制の整備に取り組む。

### ② 教育・文化施設を生かした滞在型観光の振興

日本最北に位置する旭山動物園は、動物の生態を観察できる展示方法が全国的な話題となり、市外からの入園者も急増し、年間 200 万人を超える入園者を受け入れる施設となっている。旭山動物園と新規に整備した科学館を中核に、既存の教育・文化施設を一体的な

観光資源としてとらえ、修学旅行等をねらいとした観光メニューを開発し誘致を促進することなどにより、通過型から滞在型の観光振興を図る。

### ③ 冬の魅力を生かした観光の推進

体験型観光スポットを訪れることができるような仕組みづくり、域外のイベントやスキー場と一体となった観光ルートやスキーツアーを開発して、冬季における観光客の誘致を促進し、冬の魅力を活かした観光を推進する。さらには、近年急増している北海道へのオーストラリアスキー客の誘致を、富良野や層雲峡地区と共同で行うほか、同スキー客の様々なニーズに対応することを目的とし、地域ブロックを超えて世界的にネームヴァリューのある国際観光都市の京都との連携を図り、幅広い誘致活動を展開する。

### ④ 新しい旅行形態である体験型ツーリズムの推進

近隣自治体とも連携し、農業、健康、保養を視点に置いた地域資源のネットワーク化による新たな観光プログラムを構築し、体験型ツーリズムを推進する。

### ⑤ 中心市街地における観光客向けサービスの充実と賑わいづくり

中心市街地において観光客の利便性を高める機能の整備やホテル、飲食、交通などの関連業界におけるサービスをより向上させ、買物公園や常磐公園を中心とした四季を通じた各種イベントの開催や観光資源としても価値のある都市景観の形成などに努め、観光客に対するまち全体のサービス機能の充実と一層のにぎわいづくりを推進する。



科学館(平成 17 年 7 月オープン) (写真提供:旭川市)

### 3. 取り組みの体制

これまでは旭川市の主導で観光客誘致活動や旭山動物園のリニューアル等が展開されてきている。近年では観光客の誘致を主たる目的として官民による実践的な組織体制として「あさひかわ観光誘致宣伝協議会(旭川市、富良野市、上川町、東川町)」を発足させ、各種の広域観光団体を組織化して実践的な活動を展開している。

最近では観光入込客数、特に海外からの観光客の増加が顕著になり、また主要な観光資源である旭山動物園の入園者数が大幅に増加していることから、今後持続的な観光振興を推進していくためには民間主導の取り組みも求められており、「あさひかわ観光誘致宣伝協議会」にはその推進役が期待されるようになっている。

〔あさひかわ観光誘致宣伝協議会〕

#### ① 目的

旭川観光の通年化並びに滞在型観光を促進するために、市内及び周辺の観光関係機関・団体が連携して具体的かつ実践的な観光客誘致宣伝活動を推進し、旭川観光の振興を図ることを目的としている。

#### ② 参加メンバー

旭川市及び周辺市町(計 2 市 2 町)、観光関連企業・団体

また、イベント・コンベンションの振興は、地域経済の活性化、情報化、国際化等を図る上で大きな戦略課題として位置付けられており、1994(平成 6)年には「国際会議観光都市」の認定を受け、同年 10 月には官民挙げてのコンベンション誘致・支援組織である「旭川コンベンションビューロー」を発足させている。

### 4. 具体策

#### (1) プロモーション事業

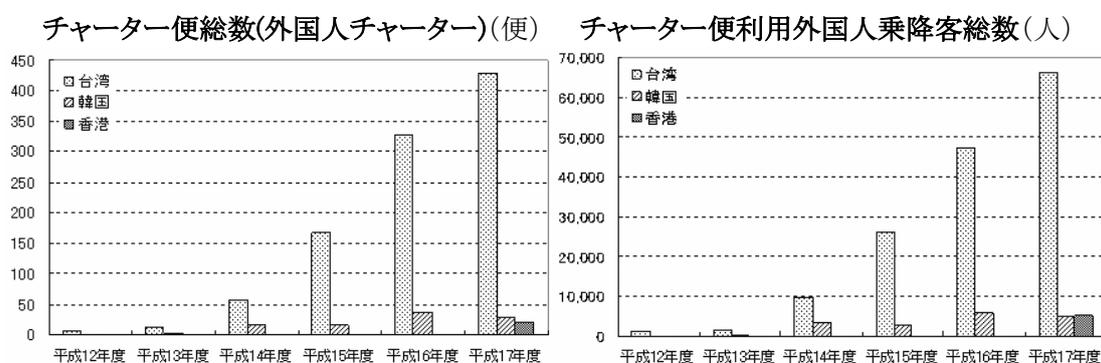
2002(平成 14)年度までは観光客誘致活動の中心施策を「キャンペーン事業」に置いた。知名度、イメージをアップするためのキャンペーン活動を積極的に展開し、一定の成果が得られた。

2003(平成 15)年度以降は、それ以上一般的なキャンペーン活動を展開しても多くの成果は得られないと判断し、活動の中心をキャンペーンから「プロモーション事業」へと転換し、ターゲットを特化(セグメント化)して実効性のあるプロモーション活動を展開した。

#### (2) 外国人観光客の積極的な誘致と受入体制の整備

2000(平成 12)年から台湾からの国際チャーター便の受入を開始した。その結果、年々チャーター便は増加し良い成果が表れた。その後、東アジア地域をターゲットにした外国人客の誘致活動を展開している。現在、台湾、香港において北海道ブームが生じており、毎年多くの観光客を誘致している。観光客の誘致に当たっては、他と競合しない独自色を出すために、当地にあつて他の地域にないものを分析評価した。一方、発地側が何を望んでいるのかをしっかりとマーケティングして旭川の優位性を強調する観光戦略を立てている。

2003年からはチャーター便を増便し、東アジアからの団体旅行の集客に注力した。2003年度韓国、2004年度台湾、2005年度香港と誘致対象を広げてきた。特に、韓国は現在ゴルフブームであり、ゴルフ人口は400万人とも言われ、韓国内のゴルフ場は飽和状態になっている。そのため、九州は北九州を玄関口として積極的にゴルフ客の誘致活動を展開しているが、北海道も夏の涼しく快適な気候を売り物にゴルフ客を誘致している。旭川は旭川空港を中心とする地域に数多くのロケーションの良いゴルフ場を有していることから、市が韓国のゴルフ客をターゲットとした誘致活動を展開した結果、旭川空港は2006(平成18)年6月に初の国際定期便(ソウル線)が就航し、韓国からの北・北海道、東・北海道の玄関口としての機能を有する国際空港へと成長した。そして、韓国を重点的な販売促進対象国として位置付け、集中的にプロモーション活動を展開中である。



(単位:便)

	台湾	韓国	香港
平成12年度	5	0	
平成13年度	11	2	
平成14年度	57	16	
平成15年度	167	16	
平成16年度	328	37	
平成17年度	428	30	20

(単位:人)

	台湾	韓国	香港
平成12年度	1,073	0	
平成13年度	1,636	218	
平成14年度	9,737	3,243	
平成15年度	26,005	2,861	
平成16年度	47,410	5,649	
平成17年度	66,162	4,827	5,060

【参考】

国際チャーター便の増加

$$2005(平成17)年度 / 2004(平成16)年度 = 494 \text{ 便} / 378 \text{ 便} = 131\%$$

外国人宿泊延数の増加

$$2005(平成17)年度 / 2004(平成16)年度 = 24,179 \text{ 泊} / 15,748 \text{ 泊} = 154\%$$



冬の旭川空港（資料:旭川市）



旭川市のゴルフ場（資料:旭川市）

### (3) 旭山動物園の再生

1967(昭和42)年に開園した旭山動物園は、一時期は入園者が26万人/年(1996年)にまで減少していた。そのため廃園して新たな開発を行う話も出たが、既存ストックを活用した集客施設の整備を図る旭川市の方針に従い、行政、民間のコンセンサスと協力関係とを形成しつつ再整備を進めた。そして、1997年の開園30周年を契機に抜本的な改修計画が立てられ、“動物と触れ合う”をテーマに大改造を行い、野生に近い環境づくりや独創的な展示手法(行動展示)を取り入れた。その後は改修した旭山動物園を観光のひとつの目玉として観光振興を図っている。2005年の入園者数(2005年)は206万8千人となった(前年度比143%)。



旭山動物園マップ (資料:旭山動物園ホームページ)

### 5. 特徴的手法

これまでは旭川市の主導で観光誘致活動(観光キャンペーン事業、観光プロモーション事業)の推進及び旭山動物園をはじめとしたソフト・ハード両面の観光資源の整備が行われてきた。

東アジアにターゲットを絞った台湾、香港、韓国への観光誘致活動は功を奏して、国際定期便の就航やチャーター便数及び外国人入域観光客数の大幅な増加が実現した。

旭山動物園はその特徴的な展示方法が高く評価され、入園者数の大幅な増加を実現した。現在ではこうした集客施設を活かしながら観光客の一層の誘致を図っている。また、観光の基盤づくりが一応の完了を見たことから、活動の体制は旭川市主導から官民協働へと移行しつつある。



旭山動物園 ペンギンの行進 (資料:旭川市)



旭山動物園の行動展示 (資料:旭川市)



旭山動物園 アザラシ行動展示 (資料:旭川市)



旭山動物園 オランウータンの空中散歩

## 6. 課題

### (1) 通過型観光から滞在型観光への転換

温泉やリゾート等、滞在して楽しめる観光資源が少ない旭川市としては、①滞在型観光に耐えるアイテムを増やすこと、②広域観光を推進すること、により旭川市拠点に周遊する観光パターン(周遊型観光)の開発を行っていくことが求められている。

### (2) 入込み観光客数の季節変動の平準化

旭川市においても道全体と同様に観光のトップシーズンは夏季であり、この季節以外の時期に観光客の誘致を如何に図るかが大きな課題となっている。

### (3) イベント・コンベンションの推進

地域経済の活性化、情報化、国際化等を総合的に進める上でイベント・コンベンションの推進は極めて有効であり、今後さらなる誘致体制、支援体制の充実を図ることが求められる。

### (4) フィルムコミッション事業の推進

テレビ等の媒体を利用して旭川市の観光 PR を図るためにフィルムコミッション事業を推進することも重要である。

### (5) 地産地消の促進による観光振興、食文化の確立、地域活性化

旭川市の市場には太平洋、オホーツク海、日本海の三海から美味しい海産物が集まることから、市の中心市街地には新鮮な魚介類を提供する飲食店が多い。また、「旭川ラーメン」は今では全国的な知名度を有している。今後は地元の食材や産品を使った料理、加工品、土産物の開発を更に進めて地域活性化につなげていくことが有効であると考えられる。

(参考・引用文献)

旭川市ホームページ